

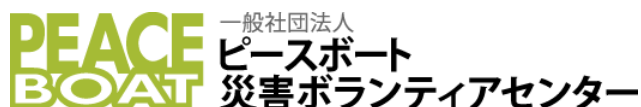
福島子どもプロジェクト 2016 夏 ～東アジア国際交流の船旅～

活動の記録



福島子どもプロジェクトとは

2011年の震災後、NGO ピースボートと一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)が、国際交流の体験を通して子どもたちに“夢と健康”を届けたいと、「福島子どもプロジェクト」を立ち上げ、実施してきました。これまでに「夏休みアジアクルーズ」(2011年7~8月)、「夏休み 福島×ベネズエラ音楽交流プログラム」(2012年7~8月)、「2013春 in オーストラリア」(2013年3月)、「2014・春 異文化を体験するアジア国際交流の旅」(2014年3月)、「2015年・春 海でつながるアジア 自然と歴史を学ぶ旅」を行いました。今までに参加した子どもは100名を超えました。子どもたちは、放射能による制約のない環境下で、のびのびと過ごし、洋上や訪れる寄港地での国際交流を通じて、自分たちの夢や可能性を大きく広げる様子が伺えました。



プロジェクト呼びかけ人

加藤登紀子 (歌手)
鎌田實 (諏訪中央病院名誉院長)
香山リカ (精神科医)
田中優 (環境活動家)
田部井淳子 (登山家)

桜井勝延南相馬市長 応援のメッセージ

*今年度プロジェクトの開始時に以下メッセージをいただきました。



ピースボートの皆様には、南相馬市を継続的にご支援いただき心より感謝申し上げます。本市の中学生がこのプロジェクトに参加し、様々な異文化を体験することは、子どもたちの成長に大きく寄与するものと期待しております。

パートナー団体

当プロジェクトは、2011年の初回からずっと、「南相馬こどものつばさ」とのパートナーシップにより実施しています。同会が、ピースボートとの綿密な協議のもと、子どもたちの選考と送り出し、学校との調整、引率者の派遣を行っております。

特定非営利活動法人 南相馬こどものつばさ

放射能の影響により、戸外での活動制限が続いた子どもたちを心身ともに解放したいという願いから、2011年6月に南相馬市に発足。市内小中学校 PTA 連絡協議会のメンバーと県外受け入れ団体が協力し、学校の長期休暇に子どもたちを保養プログラムに送り出す活動を続けている。

<http://www.kodomonotsubasa.com/>



福島子どもプロジェクト 2016

～平和なアジアは友達作りから～

海外プログラムとしては6回目となる、2016年夏のプロジェクト「東アジア国際交流の船旅」では、南相馬の中学生11名（1名高校生）と、過去（2011年）にプログラムに参加した米本一星さん（19歳）がアシスタントとして参加しました。子どもたちが乗船したのは、「PEACE & GREEN BOAT 2016」という日韓共催で行われる船旅で約半分は韓国人乗客です。韓国人以外にも、今年4月の熊本地震で被災した熊本県南阿蘇の小・中学生、日系ブラジル人などの異文化空間で国際交流を行いました。言語の壁を越えて友情を築き、様々な背景を持った人と触れ合い、一人一人の多様性を受け入れることの大切さを学びました。

■ 2016年夏プログラム・基本コンセプト

- **保養・交流** : 洋上や寄港地の自然の中で、思い切り体を動かす/ 韓国人学生、在日ブラジル人、熊本南阿蘇の小・中学生と交流を行う
- **人材育成** : 様々な背景の人と出会い、幅広い視野と将来につながる可能性を見つける
- **平和教育** : 長崎原爆資料館など、沖縄南部戦跡などの見学/ 戦争体験者の話を聞く

参加者紹介

■参加生徒 福島県南相馬市の中学生 11名

青田 七海	(原町第二中学校)	青田 瑞生	(原町高等学校)
井戸川明詩	(小高中学校)	太田 龍河	(鹿島中学校)
岡 夏輝	(石神中学校)	熊耳 多恵	(原町第三中学校)
佐瀬 翔琉	(鹿島中学校)	三浦 孝基	(鹿島中学校)
山崎 達之	(石神中学校)	山田 雛	(原町第一中学校)
渡部 岳翔	(鹿島中学校)		

■スタッフ（南相馬）

内田雅人（引率・南相馬こどものつばさ）
米本一星（アシスタント）

■スタッフ（ピースボート）

野口香澄（引率、記録）
川崎哲・塚越都（コーディネーター）

プログラム行程

■事前準備

- 参加者・保護者説明会：2016年6月19日（日） 万葉ふれあいセンター 農事研究室
- 事前研修：2016年7月18日（月・祝）万葉ふれあいセンター 生活改善室

■プログラム実施：2016年7月29日（金）～8月6日（土） / 計9日間

日付	活動場所	活動内容
7/29(金)	博多	南相馬出発、バスにて仙台空港へ 博多到着 ピースボート（オーシャンドリーム号）に乗船
7/30(土)	釜山 (韓国)	朝鮮通信歴史館の見学 龍頭山公園散策、市場の散策、食文化を知る
7/31(日)	洋上	中国人洋上講師による上海紹介企画 ソーラン節練習、韓国の伝統的な遊びの体験
8/1(月)	上海 (中国)	鳥類の保護区「崇明島」で1日のびのび過ごす フェリー乗船、自然の中でのサイクリング
8/2(火)	洋上	日韓交流イベントで、東アジア平和マップ作成、環境問題を考えるワークショップ、操舵室ツアー、在日ブラジル人ユースの発表
8/3(水)	那覇	ひめゆりの塔、沖縄平和祈念資料館、魂魄の塔、摩文仁の丘、平和祈念公園を訪れ、沖縄戦の歴史を学ぶ 米須海岸で海遊び
8/4(木)	洋上	日韓文化交流会でソーラン節の発表、福島紹介企画で一人一人想いを伝える
8/5(金)	長崎	長崎原爆資料館、爆心地公園、三菱兵器住吉トンネル工場跡、岡まさはる記念長崎平和資料館を訪れる、被爆者の方の話を知る
8/6(土)	博多 南相馬	博多空港より空路仙台へ、バスにて南相馬へ帰着

※ ピースボート日韓クルーズ 2016（2016年7月29日～8月6日 / 博多発着9日間）の旅程については、以下を参照：<http://www.pbcrui.se/jp/peacegreens/2016/>

旅の記録 ～出会い、学び、発信へ～

7月29日(金) 【 出 発 ・ 博 多 】

早朝、南相馬・鹿島の「さくらホール」に集合。南相馬こどものつばさ代表の西道典さんとの出発式。家族に見送られ、バスで仙台空港へ出発、空路博多へ。到着後、名物「博多らーめん」を食べて、博多港国際ターミナルに到着。熊本南阿蘇の先生方と合同記者会見に参加し、ピースボート（オーシャンドリーム号）に乗船。避難訓練後、船で初めての夕食を食べ、早めに就寝。



博多ターミナルでの出航記者会見、左から米本一星、内田雅人、吉岡達也（敬称略）

7月30日(土) 【 釜 山 】



朝鮮通信史歴史館にて。

朝食後、初寄港地の韓国・釜山の港のターミナルに足を踏み入れる。子どもたちは「歴史散歩～日本と韓国のつながりを感じる」ツアーに参加。朝鮮通信歴史館の見学では、朝鮮半島から日本に伝わった、文化・芸術・食べ物などを学ぶ。その後、釜山の人の憩いの場所である竜頭山公園を散策しお土産時間。少し辛い韓国料理体験後、オーシャンドリーム号に戻ると、釜山から乗船した多くの韓国人乗客の姿。盛大な出港式が行われた。

7月31日(日) 【 洋 上 】

午前中、水先案内人（洋上講師）であるチャオ・ゼン（経営コンサルタント）による「わくわく上海」に参加。明日の上海の事前知識と簡単な中国語を教えてもらう。夕方は日韓交流会に参加。韓国人大学生が、韓国の伝統的な遊び、コンギノリ（お手玉）、ジェギジャギ（羽子板）などを教えてくれた。その後、日韓文化発表会へ向けた初めてのソーラン節の練習。海をバックに汗をかいた。



チャオ・ゼンさんによる「わくわく上海」に参加する子どもたち。

8月1日(月) 【 上 海 】



「都心の生態公園、崇明島へ」のツアーに参加。中国で3番目に大きい崇明島は、上海から北に向かった中州にできた島で、鳥類の自然保護区に指定されている。散策前に、本格中華料理のバイキングで昼食。その後、フェリーに乗って、目的地の東灘湿地公園に向かう。太陽熱や風力、バイオマス発電など行っている説明を受ける。ワニや黒鳥ヤギなどが多く生息する自然公園を、サイクリングで汗をかいて楽しんだ。

8月2日(火) 【洋上】

午前中に行われた「青少年交流」イベントに参加。環境をテーマに日韓の参加者がワークショップ形式で、東アジア平和マップを作成。その後、自由時間にデッキでバスケットボール。昼食後は、午前中に行った平和マップをさらに具体化する作業。映像や写真でアジアの環境問題を学び、自分たちできることを話し合った。その後、キャプテンのいる操舵室を見学。ルームメイトの在日ブラジル人ブライアンさんの発表に参加。



アジアの環境問題を考えるワークショップ

8月3日(水) 【沖縄】



南部の米須海岸にて。

熊本の中学生と一緒に沖縄を回る。ガイドの太田光さんの説明を聞きながら、南部戦跡を見学。「ひめゆりの塔」と、「沖縄県平和祈念資料館」へ行き、写真とともに当時の詳しい話を聞く。伝統料理のソーキそばとゴーヤチャンプルーの昼食後、沖縄戦の激戦地であった糸満市米須の魂魄（こんぱく）の塔に行く。その後、海岸線を進み、摩文仁の丘のある平和祈念公園に行き、亡くなった人々への追悼を行う。最後には、美しい海岸で夏の海を楽しんだ。

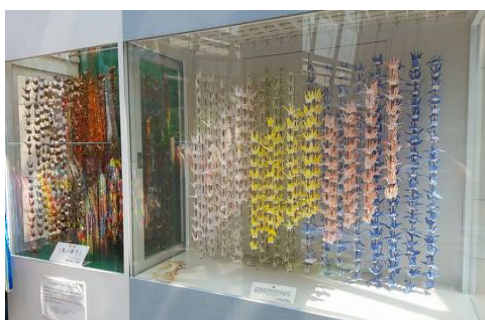
8月4日(木) 【洋上】

洋上最後の日。大きな発表が2つ行われた。韓国と日本の文化の大披露会である「日韓文化交流会」で、乗船してから毎日練習してきたソーラン節の発表。フェイスペイントをして、福島と熊本とブラジルのみんなで踊る。大迫力の演技に大きな喝采が上がった。午後は、福島紹介企画。福島の名物などを発表し、一人一人が想いを伝える福島の子どもたち。暖かい拍手に、子たちも達成感を感じた。



福島紹介を終えてほっとするメンバー。一人一人がしっかりと発表しました。

8月5日(金) 【長崎】



長崎平和公園内になる、各地から送られた折り鶴

最後の寄港地長崎。「日韓で考える「平和」への道」という韓国との合同ツアーに参加。まず、長崎原爆資料館、4日後（原爆投下日）の平和式典の準備が行われる平和公園や爆心地公園へ行き、被爆者の坂口正彦さんとガイドの萩谷さんから原爆被害についての説明、高校生平和大使の話聞く。次に、原爆の被害を受けた教会、浦上天主堂へ訪問。午後は、三菱兵器住吉トンネル工場跡と、岡まさはる記念長崎平和資料館を訪れ、太平洋戦争時の強制連行の歴史も勉強した。

8月6日(土) 【博多・帰着】



南相馬、南阿蘇、韓国の子どもたち一緒に

最終日。下船までに時間に、仲良くなった熊本や韓国の友達と最後の記念撮影。荷物をまとめて、オーシャンドリーム号を下船。博多港国際ターミナルで先に出発する南阿蘇の子どもたちを見送り。博多空港へ向けて市バスに乗り込む。昼食後、引率の野口香澄とお別れ。集合写真を撮り、空路で仙台空港へ。バスで南相馬へ向かい、9日前に出発した「桜ホール」に到着。「こどものつばさ」理事の内田さんに無事を報告。無事にすべての行程を終え、帰りを待ちわびていた家族とともに帰宅。

主な成果 ～言語を超えた交流と平和～

コミュニケーションと異文化への興味、新しい目標

船の中で飛び交っていた韓国語、英語はもちろん、中国語やポルトガル語にも触れる機会の中で、生きた言語を体験しました。伝える事が目的である会話では、知っている単語やジェスチャーを交えて試行錯誤し、伝わった時の喜びと同時に、もっと話したいという欲求が生まれます。子どもたちからは、語学を使うことによって広がる世界の大きさを感じたようで、「もっと英語を勉強して自信を持って話せるようになりたい」という声が多数あがりました。

また、国籍や言語を超えて思いを共有した「友だち」ができた事により、興味がなかった国の文化をもっと知りたくなるなど、先入観で持っていたイメージが好意的に変わっている様子も見受けられました。

平和と環境について考える

終戦から71年目の夏に長崎と沖縄を訪問し、子どもたちは教科書からは伝わらない、リアリティを感じる事ができました。それは、耳を覆いたくなるような事実もあり、心を傷めることもありましたが、その強烈な印象と同じくらい強い「平和」への思いも生まれたようです。戦争は繰り返してはいけない、そのために何ができるのか、一人一人が自分たちにできる事を考え始めました。

また、韓国環境財団の協力で行った、環境保全を考えるプログラムでは、東アジアという視点で環境を考える事によって、より身近に問題を捉える事ができました。さらに、個人レベルでは大きな改善は難しい問題も、近隣諸国と協力すれば大きな成果が得られるということを知りました。環境問題は、世界規模で深刻なレベルにあると言えますが、次の世代を引き継ぐ彼らが、問題をアジアという規模で考え始める事ができました。



韓国文化紹介で韓国の伝統的な遊びを教わる。

子どもたちの声

韓国の伝統などをたくさん知ることができてとても楽しかったです。私はクルーズに参加するまでは特に夢はなく、サッカーが大好きだったのでサッカー関係の仕事でいいやと思っていました。ですが、英語で話す職員さんをみてかっこいいなと思い、英語を使う職業を目指すようになりました。今習っている英会話でどんどん自分の英語力を試し将来の自分のために頑張りたいと思います。そして、世界の様々なところを旅して今回の旅で学んだ戦争のことを少しでも外国の人たちに伝えていきたいです。（青田七海）

初海外だった韓国や中国では、韓国と日本についての歴史を学んだり、おいしい物をたくさん食べたり、日本とは違う文化がとても新鮮でした。出港式で「ピースボートに乗っている間、私たちは1つの家族です。」という話を聞いたとき。私はなんだか嬉しく、これからどんな事が待っているのだろうというワクワクした気持ちでいっぱいになりました。南相馬や南阿蘇の子どもたちや韓国の友達、たくさん出会った人たちを思い出すと寂しい気持ちになりますが、たくさんの事を吸収できた9日間を忘れずに今後の糧にしていきたいです。（青田瑞生）

船内生活を楽しみにしていた私は、今回の船内生活にとっても満足しています。同室のメンバーとはアニメ・マンガの共通の話題で盛り上がり夜遅くまで起きていることもありました。次に学んだことは、平和の尊さです。ピースボートではその名の通り、平和について学ぶことが多かったです。韓国の釜山の近代史、沖縄での地上戦の爪痕、長崎での原子爆弾の被害など、各寄港地での学びが平和の尊さを学ばせてくれました。（井戸川明詩）

韓国と中国で海外デビューをしました。僕がこの2つの国に行って思ったことは、どちらの国も少し日本の感じがしたことです。基本は、その国の特色がありますが、町並みが少し日本っぽくて驚きました。船内では、ソーラン節や、熊本の子もたちとの交流など数え切れないほどの楽しい思い出が出来たのでとても楽しかったです。（太田龍河）

ピースボートをバスの中から見たとき、そして船に乗った時に「なんて大きな船なんだ」と思いました。表情には出せませんが、とてつもない緊張ととてもワクワクした気持ちでいっぱいでした。船内ではソーラン節の練習をしました。最終日に韓国側の方々に向けてソーラン節の発表をして、大成功に終わりました。練習に行くのが嫌だったけど、努力をすれば、いつか成功するということはこういうことだったんだなと思いました。（岡夏輝）

私は、戦争の悲惨さを沖縄や長崎で初めて思い知らされました。まず、沖縄では、日本の地上戦で死者が一番出たということを知りました。「ひめゆり学徒隊」の資料館に行った時、私は、同じくらいの歳の方々は何で戦争に動員されなければならないのだろうと思いました。将来、戦争が起こりそうなる前に、私たちができることは、何かを考え行動します。そして戦争の経験者が居なくなったあとは、私たちが次の世代に伝えていきます。（熊耳多恵）

ピースボートに参加して、初めての海外は楽しかったです。韓国はイメージしていたものと少し違いました。少し田舎っぽいイメージを持っていましたが、見た感じはビルが大きく、道路は広く初めて見るものや観光の歴史や文化なども知れることができよかったです。ほぼ毎日あったソーラン節は覚えるのが大変でしたが、最後の発表の時は楽しかったです。友達が韓国の友達と話している姿を見たときに言葉が通じなくてもジェスチャーなどで分かり合えるということも知りました。(佐瀬翔琉)

初めての体験が非常に多くてとても大変でした。沖縄に行った時、今から71年前に沖縄で起こった地上戦のことを学びました。全世界が平和になるためには、僕たちがきちんと歴史を伝えていかなければならないことを学びました。とても大事なことが学べて良かったです。韓国の人たちと交流したり、韓国の遊びで交流して、自分は前よりも積極的になれた気がします。交流すると1人で居るときよりも楽しいし、積極的になれるので交流は大切だということも学びました。(三浦孝基)

最初は日本人以外の人とコミュニケーションを取るには、もちろん言葉も必要だけれど、言葉が通じない場合は手を使うことも大事というのはいすすす分かっていました。実際に街であった時に、言葉より手が先に出てしまい、相手に少し誤解を生むときがありました。そんな時に先輩が自信の英語で伝えたいことを話してくれました。僕は、もっと勉強して後輩を助けられる側になり、積極的に外国の人にアピールしたいと思います。僕もいつかこのような旅にアシスタントとして行ってみたいと思っています。これからたくさんの人とふれあい、明るい自分を作っていきたいです。(山崎達之)

私は正直、いくら同じ船に乗船していたとしても、言葉が違うし、そこまで交流は出来ないのではないかと考えていました。でも、英語や、ジェスチャーで伝えたいことを表したりして通じ合い、仲良くなることが出来ました。(中略)今まで私は、血とか死とかが嫌いなので、学校で習った他に知ろうとはせず、むしろ知りたくないと思っていました。沖縄戦で、簡単に殺されてしまう人々、自分だけ生き延びて自分を責める人々、その人たちも戦争が起こるまでは私たちと変わらない普通の日常を送っていて、このことを知りたくないと思っていた自分が恥ずかしく思えました。(山田雛)

船内では、頼み事や会話などが英語でした。知っている英語を使い、通じた時はとてもない達成感がありました。また、移動日はアクティビティが多くあって韓国人との交流などもとても楽しかったです。自由時間は皆でスポーツデッキやジムに行ったり部屋で遊んだりしていました。本当に、本当に楽しかったです。(渡部岳翔)



アシスタントの米本星一(右)、同行スタッフの野口香澄(左)

アシスタントの感想 ～アシスタントとして乗船して～

アシスタントのイメージは中学生をまとめるものだと考えておりましたが、乗船後には、色々な人たちの講習や、自分たちで企画を作るなど、とても充実した船旅でした。中学生たちとは年齢も近いせいか、身近に接してくれて私が話している時もきちんと話を聞いてくれてまとめやすかったです。大変だった事は、常に周りを見て行動しないとイケなかった事です。特に集合時間に間に合わない子や、集合場所を忘れてしまった子たちを探すことが大変でしたが、それによって周りを見て行動する、まとめる力がついたと思います。

船の上では、いろいろな人と出会い、そしていろいろな話をしました。たとえば、初めて自分が船に乗った時にカメラマンを担当した片岡和志さんと当時の話をしたり、食事の時に知り合った方と船に乗った経緯などを話しました。その中で今の南相馬市の現状などを伝えることでより深く知ってもらえたと思います。また、今回は熊本の子どもたちとも一緒に行動することが多く、熊本震災の事も聞きました。私は消防士を目指し、勉強をしています。南相馬市に戻った後も震災の事を忘れず自分が消防士になった時に南相馬の安全を守っていきたいと考えております。

今回アシスタントを務めて本当に良かった事は、いろいろな人と仲良くなれたことと、人の気持ちを理解する力がついた事です。歳が近いといってもやはり中学生との考え方も違うので前回自分が船に乗った時の事を思い出したりなどをして、1人1人の考え方を理解してあげることでより仲良くなれることが出来ました。

米本一星

パートナーからのメッセージ

共同実施となるパートナー団体「南相馬こどものつばさ」より

今回はピースボート日韓クルーズ「PEACE & GREEN BOAT 2016」の9日間の船旅に、南相馬市の中学生10名と高校生1名、更に2011年参加者で専門学校生の米本一星くんをプロジェクトアシスタントとして迎え、福島こども総勢12名で参加させていただきました。日韓両国約500名ずつ合計1000名が乗船しており、その中の4分の1が子ども達で、とても賑やかな船内でした。洋上においても食事や生活習慣など異文化を感じられる船旅となりました。

今クルーズには、4月の熊本地震で大きな被害に見舞われた南阿蘇村の小中学生25名も乗り合わせていて、船内企画や寄港地プログラムでも一緒に時を過ごしました。ブラジルユースのブライアンとガブリエラとは、同じ部屋で寝起きを共にして、文字通り寝ても覚めても国際交流を果たしました。釜山・上海・那覇・長崎と各寄港地では歴史や文化、環境そして平和について学びました。

日韓交流会の中で、自然環境や生態系の重要性を考え、自分たちが暮らす東アジアの環境ビジョンについて話し合い、それぞれの目線でアクションプランを立てるという頼もしい一幕もありました。交流イベントの締めには、忙しい毎日をおくる限られた練習時間の中で習得した、ソーラン節を披露しました！福島と熊本そしてブラジルユースの子どもたちが一体となり、心地よい達成感が得られた瞬間でした。

言葉や文化そして歴史も違う子ども達が、様々な交流を通じて打ち解け合い、いろんなシーンで見せてくれた多くの笑顔に囲まれて、とてもいい船旅になりました。

特定非営利活動法人 南相馬こどものつばさ
内田 雅人

韓国環境財団からのメッセージ

～日韓青少年交流を通して生まれた新たな未来～



正直に言うと日韓関係が良いとは言えない、今のタイミングで言葉も通じない子どもたちの交流が上手く行くだろうかという懸念の声も少なくありませんでした。しかし、今振り返ってみると、子どもたちは大人の心配はなんのその、日韓の壁を乗り越えて、新しい未来を示してくれた。交流プログラムの中で日韓の子どもたちは韓国のアリラン（韓国の民謡）、日本のソーラン節などお互いの文化に触れ合いながら友だちになっていた。また、東アジア生態マップを一緒に作りながら両国の環境問題について話し合うことを通して、アジアにおける環境や平和問題は一つの国だけの問題だけではなく、すべての国と市民が力を合わせていかなければ解決できないことであるのも実感しました。

「PEACE&GREEN BOAT で日本の友だちと話をしたり、一緒に遊んでるうちに日本に対してよい印象を持つようになった。そして、東アジアが本当にひとつになれるという希望を持つようになった。」これは韓国参加者の感想の一部です。

まさに、一緒にアリランを歌い、一緒にソーラン節を踊りながら、心を開いて楽しんでいる子どもたちの姿からこれからの日韓関係、ひいてはアジアの未来は変わるのではないかという希望が見えてきました。日韓の青少年たちがこれからのアジアの未来を作っていく上で、この船旅での交流が平和への糧となることを期待します。

韓国環境財団コーディネーター
イ・ソンギュ、イム・ジウン

メディア掲載

以下のメディアで福島子どもプロジェクトが取り上げられました。

- 熊本日日新聞 2016年7月30日
「南阿蘇の『笑顔』を乗せて」
- キャンハン（京郷）新聞（韓国） 2016年8月3日
「福島からきた女の子」



みなさまのご支援ありがとうございました

今回のプログラムは、多くの方々のあたたかいご協力ご支援のもと実現することができました。心より感謝申し上げます。

●助成金

LUSH Fresh Handmade Cosmetics

●ご寄付

個人の方 27 名からご寄付をいただきました。

※個人情報の観点から寄付者お一人お一人のご紹介は控えさせていただきます。心より感謝申し上げます。

おわりに

おかげさまで、2016年夏の福島子どもプロジェクトを無事終えることができました。ご支援、ご協力いただいた皆さまに、あらためて感謝申し上げます。

昨年も感じていたことですが、震災から5年が経ち、このプロジェクトに求められるものがより幅の広いものになっていると感じます。震災直後は、とにかく多くの子を放射能から遠ざける保養という役割が急務でした。その後、福島県にはたくさんの支援の手が差し伸べられ、子どもたちは多方面で学ぶ機会を得ていると同時に、「福島県の子ども」という強い責任感を感じている子どもが多いということに気づきます。今、私たちができることは、県や国という枠組みを越えた、多くの体験や多様性との出会いを通して、自らの可能性を広げ、自分の将来を見つめる機会を増やすことだと考えます。

今回から、新しい試みとして、2011年のプログラムに参加した学生を、アシスタントとして迎えました。彼は、消防士になりたいという夢を持ち、地域の平穏な暮らしは、諸外国との良好な関係性なくしては成り立たないと考え、東アジアクルーズへの参加を希望しました。船の中では、熊本地震で被災した小・中学生や、韓国人学生との交流を楽しみ、そこから今後への大きな学びを得たようです。

9日間の船旅は、短く感じるかもしれません。しかし、新しい出会い、ルームメイトの日系ブラジル人、熊本の子どもたち、乗客の半分が韓国人という環境で、めまぐるしく起こる出会いや学びの中で、実際に子どもたちが大きく成長していることに気づきます。船を通じてできた、いろいろな場所に住む友達との出会いにより、日本のこと、福島のこと、これからの将来のことを、今までより広い視野で考えるようになります。

福島では、住民の帰還が進んでおりますが、今なお生活の中には放射能という制約が存在しています。感受性豊かな子どもたちが、見識を広め、将来を見据え、大きく成長する手助けを、これからも多くの方々と共に手を携えながら継続できればと願っております。

私たちのプロジェクトに、引き続きご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

NGOピースボート
一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

これからも「福島子どもプロジェクト」にご協力をお願いします！

ピースボートおよびピースボート災害ボランティアセンターでは、今後も福島の子どもたちへの支援を続けていきます。今後のプロジェクトの継続と発展のために、引き続き、ご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

<福島子どもプロジェクトへの募金>

郵便振替 00120-9-488841 (下 6 桁は右ツメ)
加入者名 社)ピースボート災害ボランティアセンター
※ 通信欄に「フクシマ」とご記入ください

銀行振込 ゆうちょ銀行 ゼロイチキュウ店 (019 店) 当座 0488841
口座名 社)ピースボート災害ボランティアセンター
※ 振込依頼人の前に「フクシマ」とお書きください
⇒ 例)「フクシマ ヤマダ タロウ」

クレジットカード <http://pbv.or.jp/donate/fukushima.html> をご覧ください

福島子どもプロジェクト 2016 夏・活動の記録

【発行】NGO ピースボート / 一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

【編集】川崎哲、塚越都、野口香澄、合田茂広

【写真】野口香澄、片岡和志

【リンク】ピースボート福島子どもプロジェクト http://www.peaceboat.org/projects/fukushima_youth/
ふくしま支援ブログ http://pbv.or.jp/blog_fukushima/

この刊行物に関するお問い合わせはピースボート事務局までお願いします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1

TEL: 03-3363-7561 FAX: 03-3363-7562 E-MAIL: info@peaceboat.gr.jp

**PEACE
BOAT**